

令和7年度 江戸川区立松江第四中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考えて自らすすんで学び 体験を通して豊かな心を育む 健康でたくましく生き抜く	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	生徒の希望や夢を育む学校 よく学び 心ゆたかに たくましく 授業改善に努め、学びを継続し、人権を尊重し、人間性を高められる教師
前年度までの本校の現状	成果 ①基礎学力の向上（全国学調 R5自校比 国-14、数-8） ②不登校生徒、特別な支援を要する生徒への支援の充実（第二校内別室、別室支援員9名） ③体力の向上（都体力調査 全体 都比+6.9 区比+7.2）	課題	①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ②不登校を生まない、安心して学べる魅力ある学校づくり ③教職員の働きやすさと働きがいの両立

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	全国、区の各学力調査の正答率を基礎データとし、教科や分野の理解度を分析し、授業改善につなげる。	区の学力調査において、前年度より高い正答率とする。	75%	95%	B	家庭学習の課題として、週末の学習時間が極端に減少するので、この傾向を生徒と共有し、改善を呼びかける。	B	学校が呼びかけるだけでなく、家庭の協力を得ることを意識して欲しい。	B	〇具体的な取組は実施できている。 ▲タブレットの効果的な活用が課題。	B	ドリルパークの活用率が、区内中学校のなかで2位となった。教員の活用意識が高い。	よむYOMUワークシートが習慣化できているので、より効果を生むような工夫を考えていく。
		年3回校内研究授業で授業者の授業を参観する。また、相互参観期間を年2回設ける。	校内生徒評価における肯定的評価を80%以上とする。	80%	100%	B	校内研修は工夫して企画運営されており、また、参加率もほぼ100%と研鑽意識も高い。	B	先生方が授業改善の研究を行うと、生徒の利益につながるので、今後も励んでください。	A	〇2学期初めに全教員が授業を相互参観する期間を設けた。 ▲外部の研修、研究機会を活用すること。	A	自己研鑽だけでなく、相互研鑽につながる機会を持つことができたことは良かった。	研究会に積極的に参加するなど教員が校外との人的ネットワークを拡げる意識を持つこと。
	<外国語教育の推進> ・授業力の向上とALTの効果的な活用	・躊躇なく英語が使えるよう、少人数を活かしたスピーキング力の向上 ・英語検定の受験率向上	・英語を使っての会話の実感（80%） ・英検受験者70名以上	80%	95%	B	1年間の英検受験のべ人数が、令和6年度が162名だったのに対し、令和7年度には186名と約15%増加した。意識づけの周知が功を奏した。	B	これまでの生活のなかで英語を使う機会が少ない生徒が多いので、是非学校で会話する機会を多く設けて欲しい。	B	〇回数の増えたALTを効果的に活用できた。 ▲英語力向上の必要性を訴求すること、	B	引き続き、英語力の必要性について訴求して欲しい。	来年度も英検の受験者数が増えるよう周知活動に注力する。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	「よむYOMUワークシート」を活用する。また、読書を通じた探究的な学習の実施・充実を図る。	・「よむYOMUワークシート」を年30回以上実施する。 ・図書や探究的な学習にかかる生徒アンケートの肯定的評価を80%以上とする。	A	95%	A	探究的な学習に結びつける課題はあるものの、図書室自体の利用は、昼休みを中心に活発に行われている。	A	課題発見、解決型の学習に読書活動を結びつけて欲しい。	A	〇読書活動は、調べ学習や発表活動の中にも取り入れることができている。 〇図書環境の整備を図った。 ▲探究的な学習に結びつけること。	A	課題発見、解決型の学習に読書活動を結びつけて欲しい。	探究的な学習の一環に位置付けること。
体力向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・単元の技能向上を意図した補助運動の実施 ・外遊びや部活動を通じた運動体験の機会向上	・都体力調査において区都を上回る。	80%	90%	B	昼休みに校庭で活動する生徒が多く、体力向上や運動習慣に寄与している。	B	区や都の平均を上回るよう頑張ってください。	A	▲都区を上回ることができなかった。	A	調査結果の向上につながった取り組みを、近隣中学校と共有して欲しい。	調査時には、事前に工夫をしたうえで取り組む。昼休みに校庭で運動する学校文化を更に発展させる。
	・すべての教育活動を通じた生活習慣の改善	運動会に前向きに取り組む態度を育成する。	・事後アンケートや感想文から、多くの作文を紹介する。 ・終了後の学級活動で、学んだことを相互紹介し合い、相互尊重の意識を育む（6月）。	80%	100%	B	就寝時間が安定するよう様々な場面で指導していく。	B	どんなに学校が呼びかけても、家庭の協力が欠かせないと思うので、家庭への働きかけも行うとよい。	A	〇昼休みに校庭で活動する生徒が多く、体力向上や運動習慣に寄与している。 〇栄養士が積極的に食に関する情報発信をしている。 ▲不規則な生活習慣が改善されない。	B	活発な印象を持つことができている。	睡眠時間が、体力や学力に影響していることを理解させる。
実現共生 教育に 育に	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルーム	・SC、巡回心理士の情報共有と組織的支援 ・保護者との関係づくりと機関諸機関との連携 ・エンカレッジルーム、相	・生徒・保護者の悩みが、教師やSCなどとの相談や面談、エンカレッジルームの活用によって総				2部屋あるエンカレッジルームを活用するとともに、別室指導支援員を9名任用し、校内別室指導の充実を図った。		教室には行けない生徒の居場所が学校内にあることはとても重要。校内別室指導支援事業に参加し、別室指導に先進的に取り組んでいる点を高く評価する		〇つながりのない生徒数がゼロになった。 〇別室指導支援員を複数名確保し、校内別室指導の充実を図った		校内別室指導の体制が評価できる。	別室での学習の質を上げることが課題である。

社会への推進	・オンラインプラットフォームの活用促進	・オンラインプラットフォーム、相談室の活用	・活用によって削減・解消できる（80%）	95%	100%	A		A	・活用している点と高く評価する。	A		A	
不登校・いじめ対応の充実	・不登校支援委員会を中心とする攻めの不登校対策 ・オンライン面接、授業配信の実施	・学校とのつながりの確保（タブレットの活用など） ・外部専門機関の積極的活用	・どこにもつながりがない生徒をゼロにする	90%	100%	A	外部専門機関を積極的に活用した。どこにもつながっていない1名の生徒について、家庭と本人に働きかけている。	B	不登校生徒数が減少したが、まだ出現率としては高いので、引き続き対策が必要と感じる。	A	〇つながりがない生徒数がゼロになった。	B	校内体制と個別支援が効果を生んでいると感じる。SNSトラブルは家庭との連携が必要である。いじめの未然防止、早期対応について注力して欲しい。
	・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・L-Gateの活用	・生徒用タブレットを毎日活用し、集団内の傾向や変化を分析する。	・「毎日の記録」を確実に実施する（毎日）。	80%	90%	B	いじめの未然防止、早期発見・早期指導を組織的に実践している。	B	中学生は人間関係でよく失敗するので、いじめがゼロにはならないかもしれないと考え、早期の丁寧な対応が大切だと考える。	B	〇いじめアンケートの内容を、個々のケースに応じ丁寧に対応することができた。 ▲いじめの未然防止の取り組みを工夫して行う余地がまだある。	B	未然防止、早期発見に関して、校内で共通理解、共通実践できるよう、教員の意識向上を啓発する。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	・学校ホームページの充実 ・学校公開の実施・充実	・ホームページ月20回更新 ・年3回の土曜授業・学校公開の実施	・ホームページ、月平均アクセス数9000件以上 ・学校のことがよくわかる（80%）	90%	100%	A	毎月の平均アクセス数は約1000件。目標に到達できた。毎日の出来事をタイムリーに掲載できた。宿泊行事でも現地から最新情報を掲示した。	A	ホームページにより学校の様子を詳しく知ることができた。記事内のコメントもわかりやすかった。	A	年間総アクセス数が15万件を超えた。毎日の出来事をタイムリーに掲載できた。宿泊行事でも現地から最新情報を掲示した。	A	ホームページにより学校の様子を詳しく知ることができた。記事内のコメントも適切であった。
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者アンケートの実施 ・評議委員会における意見聴取	・教育活動全般への肯定的評価（90%）	50%	60%	B	各種広報媒体の位置づけを確認し、相乗効果を生み出す仕組みづくりが課題。	B	学校の様子がわかりやすくなってきたと感じる。	B	▲学校公開、アンケート、学校だより、ホームページがそれぞれ単発なものではなくなるようにする。	B	ホームページ以外の媒体の効果的な活用が課題。 各種媒体を有機的に結びつける。
教育の特色ある展開	・防災教育の充実	・生徒の防災意識向上を目的として、引取訓練前後に事前の活動と事後の活動を新設する。	・生徒アンケートにおける肯定的評価（80%）	50%	60%	B	避難訓練や安全教育の開催に留まってしまっている。	B	町会主催の防災訓練を校内に周知してくれたのは有難かった。	B	今年度は、地域や関係機関と連携した合同防災訓練を開催することができなかった。	B	連携を期待している。 合同防災訓練の開催が課題。
	・働き方改革の推進	・長時間労働の是正 ・部活動複数顧問制	・時間外労働時間、月平均4.5時間以内	40%	50%	C	時間外在校時間が極端に多い教員が複数いる。	B	先生方が本当に多忙に見える。業務について、見直しができるものはどんどん見直しを欲しい。	B	時間外在校時間がなかなか減らすことができない。	B	夜遅くまで職員室の電気が付いていることが多いので、早く退勤できる体制を構築して欲しい。 残業文化を払拭する意識改革を行っていく。